

## 1. 月間の収支状況

### (1) 現在の収支

- ・収入総額の平均は、自宅通学者が 6.7 万円、自宅外通学者が 11.7 万円であった。
- ・自宅通学者の 53.3%、自宅外通学者の 40.0% が毎月貯蓄をしており、その平均額は自宅通学者が 2.6 万円、自宅外通学者が 2.3 万円と、比較的堅実な様子もうかがえた。
- ・自宅通学者の 24.8%、自宅外通学者の 73.7% は親からの援助を受けており、その平均額は自宅通学者（小遣い）が 1.7 万円、自宅外通学者（仕送り）が 6.0 万円であった。
- ・自宅通学者の 29.1%、自宅外通学者の 44.4% は奨学金を受給しており、その平均額は自宅通学者が 5.2 万円、自宅外通学者が 6.3 万円であった。
- ・自宅通学者の 85.4%、自宅外通学者の 73.8% はアルバイト収入を得ており、その平均額は自宅通学者が 5.4 万円、自宅外通学者が 5.3 万円であった。

### (2) 1年前と比較した収入

- ・1年前と比較した収入総額は、「減った」との回答が 30.5%、DI は 4.7 となった。
- ・費目別では、親からの援助 DI が 3.3、アルバイト収入 DI は 1.3 であった。一方、奨学金 DI は 0.7 と若干プラスであり、収入の減少を補填しようとしているようだ。
- ・自宅通学者は DI 値が軒並みマイナスとなっている。自宅外通学者は親からの援助（仕送り）DI が 3.0 であるものの、アルバイト収入 DI が 1.8、奨学金 DI が 1.3 と若干プラスであり、仕送り減をカバーしようとの姿勢がうかがえる。

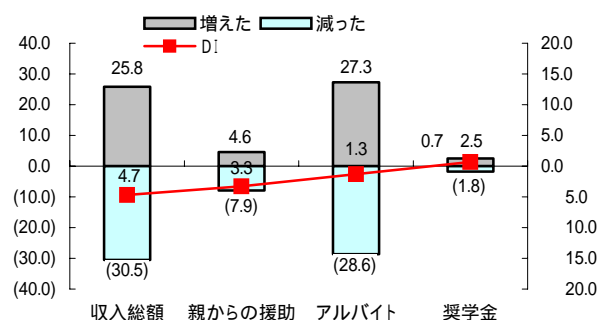
図表-1 毎月の平均収支額 (n=298)

(単位:万円)

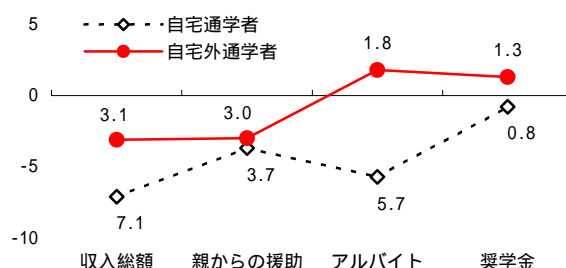
	全体	自宅通学者	自宅外通学者
<b>収入総額</b>	<b>9.4</b>	<b>6.7</b>	<b>11.7</b>
親からの援助 (小遣い・仕送り等)	2.6 (5.0)	0.4 (1.7)	4.4 (6.0)
アルバイト	4.2 (5.3)	4.6 (5.4)	3.9 (5.3)
奨学金	2.2 (6.0)	1.5 (5.2)	2.8 (6.3)
その他	0.4	0.2	0.6
<b>支出総額</b>	<b>9.4</b>	<b>6.7</b>	<b>11.7</b>
家賃	2.0	0	3.6
食費	1.5	0.7	2.2
学習費(授業料除く)	0.3	0.2	0.3
通信費	0.6	0.6	0.7
ファッション費	1.1	1.1	1.1
娯楽費	1.3	1.3	1.3
貯蓄	1.1 (2.5)	1.4 (2.6)	0.9 (2.3)
その他	1.5	1.4	1.6

(注) 各数字は全回答を単純平均したもの  
〔 〕内は「ゼロ」との回答を除き単純平均したもの

図表-2 1年前と比べた収入増減(費目別, n=302)



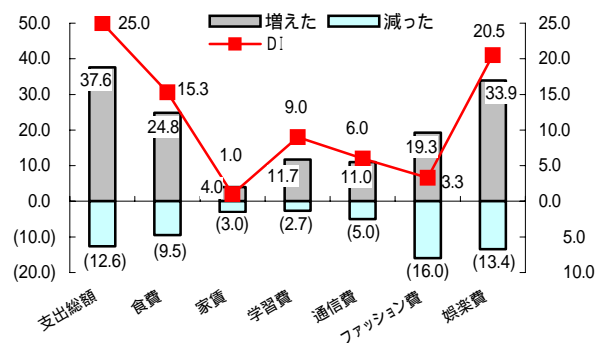
図表-3 1年前と比べた収入増減 (n=302)



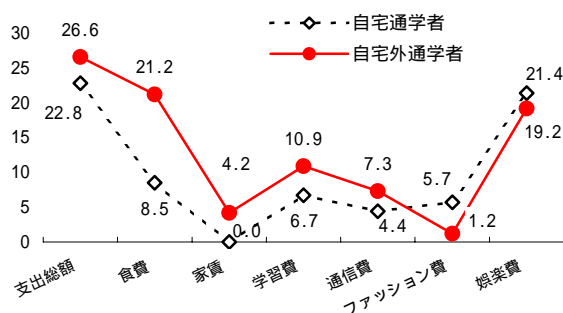
### (3) 1年前と比較した支出

- ・1年前と比較した支出総額は、「増えた」との回答が37.6%、DIは25.0となった。また全ての費目でDIはプラスとなっており、収入減の一方で、支出は増加している。
- ・特に食費や娯楽費はDI値が高く、その他には「車を購入したため維持費がかかる」といった回答もみられた。
- ・自宅通学者はファッション費や娯楽費のDI値が高くなっている。一方、自宅外通学者は食費DIが21.2と、自宅通学者より12.7ポイント高く、昨今の生活必需品の高騰も影響しているとみられる。

図表-4 1年前と比べた支出増減(費目別, n=301)



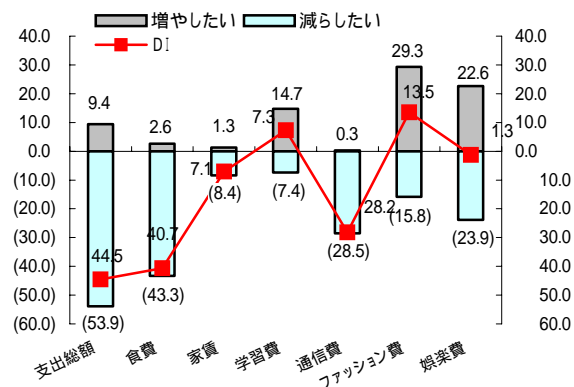
図表-5 1年前と比べた支出増減 (n=302)



### (4) 今後の支出意向

- ・支出総額は、全体の53.9%が「減らしたい」と考えており、DIも44.5と、支出抑制傾向が鮮明となった。特に食費や通信費は抑制傾向が強い。
- ・一方、ファッション費と学習費のDI値はプラスであり、食費などを削ってでも自分への投資は惜しまない一面がうかがえる。

図表-6 今後の支出意向(費目別, n=297)

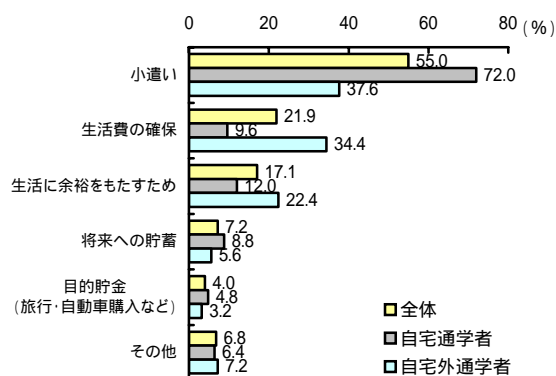


## 2. アルバイト

### (1) アルバイトをする理由

- ・自宅通学者の72.0%は「小遣い」のためにアルバイトをしている。一方、自宅外通学者は「小遣い」のほか、「生活費の確保」(34.4%)、「生活に余裕を持たすため」(22.4%)との回答も多く、アルバイトは生活費を補う手段でもあるようだ。

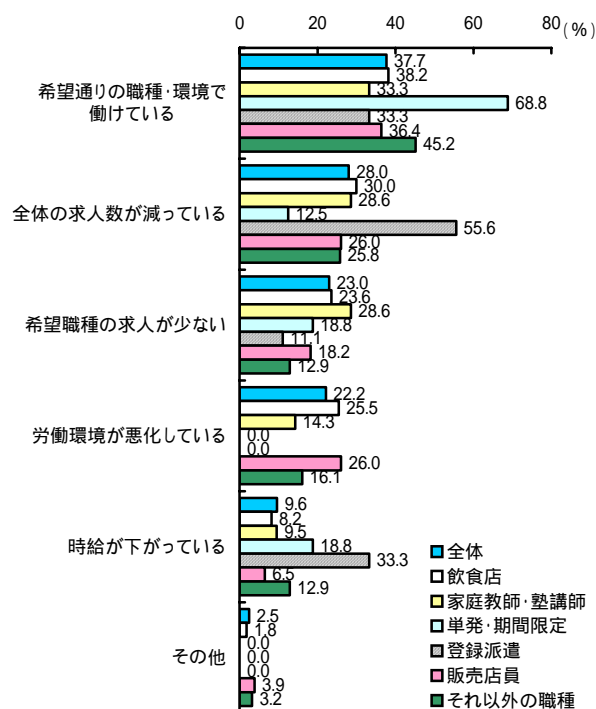
図表-7 アルバイトをする理由 (n=251, 複数回答)



## (2) 雇用環境

- ・現在の雇用環境について、全体の37.7%が「希望通りの職種・環境で働けている」と回答。しかし、「全体の求人数が減っている」「希望職種の求人が少ない」「労働環境（勤務時間など）が悪化している」も各2割以上と、学生にも景気悪化の影響が及んでいることがうかがえた。
- ・職種別にみると、登録派遣は求人減、時給下落など雇用環境の悪化が顕著である。また、販売店員では「閉店時間が早まった」など、労働環境の悪化を挙げる回答が多かった。

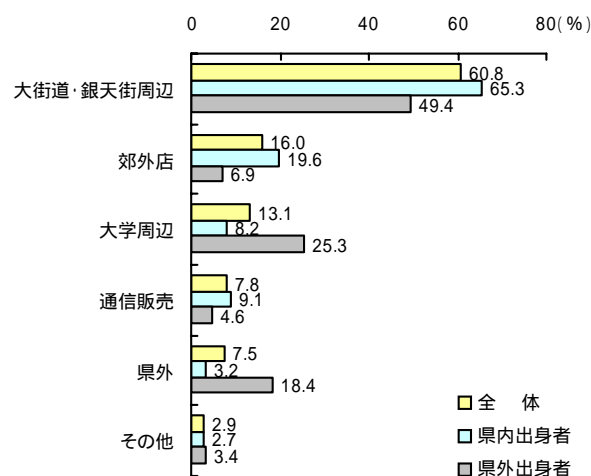
図表-8 雇用環境 (n=239, 複数回答)



## 4. 主な購買エリア

- ・買い物（衣料品など）をする主なエリアとして、全体の約6割が「大街道・銀天街周辺」と回答した。
- ・県外出身者の約2割は地元に戻って購入するもの、半数は「大街道・銀天街周辺」と回答しており、市内中心部に大学が位置していることで、中心商店街などにはプラスの影響があるようだ。
- ・「通信販売」との回答は1割に満たないという結果であった。

図表-9 主な購買エリア (n=306)



## まとめ

今回のアンケート結果から、景気悪化に伴い、愛媛の大学生の生活は厳しい状況にあることが分かった。多くの学生は決して余裕のある生活を送っているわけではなく、自分でやりくりしながら身の丈に合った消費を心掛けているようだ。しかしその一方で、自分磨きの投資は惜しまないというこだわりの一面もうかがえた。

今後消費の中心となるのは若年層である。彼らの価値観や消費スタイルを的確に捉え、今後の消費拡大につなげていくことが求められているのではないだろうか。

(河野 静香)